◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

愛媛県立図書館 読書会協力図書
新規受入セットのご紹介（YA 高校読書会向け） 平成 24 年版目録掲載

YA1 人生を考える（哲学・宗教）

YA1-1 動物たちが開く心の扉

大塚敦子著 岩崎書店 2005（平成 17）年 127p

虐待や家庭の崩壊で心に深い傷を負った子どもたちを癒す施設、グリーン・チムニーズ。自然や動物と関わることで、心が癒され、笑顔と生きる力を取り戻していく子どもたちの様子が紹介されている。

YA3 社 会 の 問 題

YA3-1 できることをしよう。

ぼくらが震災後に考えたこと 糸井重里 ほぼ日刊イトイ新聞

糸井重里著 新潮社 2011（平成 23）年 398p

『ほぼ日刊イトイ新聞』に掲載された東日本大震災関連のコンテンツをまとめた本。救援物資の配送や津波被害の瓦礫の片付けなどを自発的に始めた人たちのレポート。私たちに何ができるかを問いかけてくる。

YA4 自然をみつめる

YA4-1 さよならエルマおばあさん

大塚敦子著 小学館 2000（平成 12）年 59p

エルマおばあさんがガンの告知を受けてから亡くなるまでの日々が愛猫の目を通して語られる。死と向き合い、最後まで家族への愛情を贈り続けたおばあさんから命について教えられる本。小学館児童出版文化賞（第 50 回），講談社出版文化賞（第 32 回）受賞作。

YA7 心のうるおい（趣味・芸術・スポーツ）

YA7-1 日本男児

長友佑都著 ポプラ社 2011（平成 23）年 244p

愛媛県出身で世界を舞台に活躍しているプロサッカー選手長友佑都。世界一のサイドバックになるという目標を実現するために日々努力してきた強い意志と不屈の精神をもつ長友選手ならではのエピソードが語られている熱い一冊。

****

YA7-2 負けない自分になるための32のリーダーの習慣

澤穂希著 幻冬舎 2011（平成 23）年 202p

ワールドカップで優勝したなでしこジャパンのキャプテンであり、日本女子サッカーを支えてきた中心選手澤穂希。12 歳でプロチームに入り、夢の実現に向けて戦い続けてきた強い意志をもちながら、ありのままの自分を大事にするスタイルを語ってくれる本。

YA9 詩歌・随筆・記録・外国文学

YA9-1 塔和子 いのちと愛の詩集

塔和子著 角川学芸出版 2007（平成 19）年 186p

ハンセン病のため、14 歳で島の療養所に隔離された過酷な現実の中で、筆者は生きる喜びや苦しみを綴っていった。人間とは？命とは？愛とは？と問いかけ続けた作品を集めた、若い人たちへ希望を託す詩集。

YAF 小説

YAF-1 西の魔女が死んだ（新潮文庫）

梨木香歩著 新潮社 2001（平成 13）年 226p

中学に入って学校に行けなくなったまいは、しばらく田舎のおばあちゃんの家で暮らすことになった。まいが学んだ「生きる力」とは…。日本児童文学者協会新人賞（第 28 回），新美南吉児童文学賞（第 13 回）受賞作。

◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

愛媛県立図書館 読書会協力図書
新規受入セットのご紹介（YA 高校読書会向け） 平成 24 年版目録掲載

YAF 小説

YAF-2 きみにしか聞こえない（角川文庫）

乙一著 角川書店 2001（平成 13）年 201p

友達のいないわたしには携帯電話を持つ必要もない。でも、いつか携帯電話を持つ自分を夢見るうちに脳内に電話の相手の声が聞こえてきて…。心に傷をもつ主人公の痛みが伝わってくる短編集。

****

YAF-3 暗いところで待ち合わせ（幻冬舎文庫）

乙一著 幻冬舎 2002（平成 14）年 262p

視覚障害をもつミチルの部屋に、殺人事件の犯人として追われている男が逃げ込んできた。ミチルにはその男の姿が見えないまま、二人の同居生活が始まった。

****

YAF-4 4TEEN

石田衣良著 新潮社 2003（平成 15）年 251p

東京の月島を舞台に、14 歳の少年４人を主人公にした８つの短編集。少年たちが友情、恋愛、死について悩み、少しずつ成長していく青春物語。2003 年第 129 回直木賞受賞作。

****

YAF-5 幸福な食卓

瀬尾まい子著 講談社 2004（平成 16）年 231p

どんな悲しい出来事のあとにも朝は必ずやってくる…。多感な 10 代の主人公がいろいろな経験をする中で、家族について改めて考える心温まる作品。

吉川英治文学新人賞（第 26 回）受賞作。

YAF-6 夜のピクニック

恩田陸著 新潮社 2004（平成 16）年 342p

高校生活最後のイベントは、80kmの道のりを夜通し歩くという「歩行祭」。卒業を前にしてそれぞれが決意や夢を胸に抱いてゴールを目指す姿が爽やかに描かれた青春小説。吉川英治文学新人賞（第 26 回）、本屋大賞（第 2 回） 受賞作。

****

YAF-7 きみの友だち

重松清著 新潮社 2005（平成 17）年 316p

「友だち」って何？―人間関係に悩み、苦しみ、心の支えを必要としている中学生たちを主人公にした連作短編集。本当の「友だち」の意味を考えさせられる本。

****

YAF-8 6TEEN

石田衣良著 新潮社 2009（平成 21）年 250p

高校生になった「4TEEN」の４人組を描いた作品。14 歳のときとの違いは、リアルな大人の世界を垣間見ることができることと、それぞれの悩みが具体的になったこと。変わらないのは４人の絆という温かい青春小説。

****

YAF-9 「また、必ず会おう」と誰もが言った。

喜多川泰著 サンマーク出版 2010（平成 22）年 215p

友だちにかっこつけたいだけについた嘘から始まった。東京から熊本の自宅に帰るまでに出会った人たちの優しさや厳しさに触れながら、自分の生活を見直し、「生きる力」について考える高校生の旅を描いた本。

◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

愛媛県立図書館　読書会協力図書

新規受入セットのご紹介（YA　高校読書会向け）平成 24 年版目録掲載

◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆